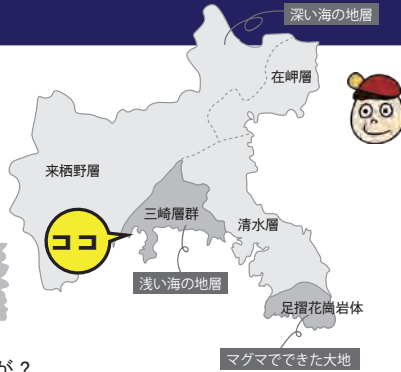


とさしみず ジオめぐり

土佐清水がもっと楽しくなる/
ジオ視点の土佐清水案内

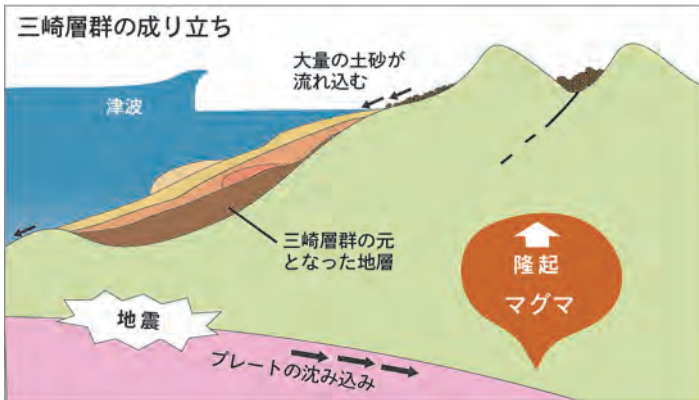


爪白海岸 詰めまで白い!? 爪白海岸。三崎層群の端っこに行ってみよう!

土井さん、「とさしみず、ジオめぐり」今回はどこに行くが？
僕も連れていってもらいたい!

いいね、じゃあ、今回は三崎層群の西の端っこ「爪白海岸」に行ってみよう。

三崎層群は、日本列島が大陸から離れてきた1700万年くらい前に浅い海にたまってできた地層だね?



そう。当時、ものすごい勢いで隆起していた四国山地から大量の土砂が運びこまれてきたと考えられているよ。世界的に見てもすごい速度で土砂がたまっていて、これほどの規模の場所は珍しいんだよ。それから、たまった地層に大きな力がかかって、斜めに傾いているから、地層が海岸にむき出しになっているんだ。だから、海岸を歩けば、時代を追って地層を観察することができるよ。東の端の養老、松崎、落窪は古い時代に比較的沖合でたまった地層で、泥が多いよ。西に行くほど新しい時代になって、浅瀬でたまった砂の層で白っぽくなるんだ。今回、案内する爪白海岸は三崎層群の中で一番新しい地層だよ。それじゃあ、今日は海底館の遊歩道のあたりから、その西の先、爪白の浜まで歩くよ。

おっ! 確かに、西にある海底館の遊歩道のあたりは岩が白いね。



爪白海岸は河口付近で川の砂が大量に流れ込むような場所だったんだ。川の流が地層を削ったり、さらにそこへ砂がたまっていった様子や、当時、河口に住んでいた生き物の化石が残されているよ。これは、シジミの仲間の生痕化石だよ。



河口のあたりやったけん、シジミがおったがやろうか。
あ! こことか、地層の線がキレイに見えて、砂が削られたり、たまってりしちゃうのがわかるね。



こういう砂がたまった構造は専門用語でラミナ(葉理構造)と呼ばれているよ。

さあ、海底館を越えて、爪白の浜を歩いて三崎層群の端に行ってみよう。

ん? ここらへんから、岩が黒っぽくなってきた。もしかして、ここが三崎層群の端っこ?



そのとおり! 黒っぽい泥岩と白っぽい砂岩とのコントラストがはっきりしているでしょう。この境目を「三崎断層」といって、黒っぽい泥岩で土佐清水の土台である「付加体」と三崎層群との境界だよ。しっかり端っこまで白い砂岩になっているのがわかるよね。角川地名辞典によると、爪白の名前の由来は「詰めまで白い」だからなんだって。

じゃあ、昔の人が崖の下まで白い砂岩があるのを見て、「爪白」と呼び出したがやろうか? おもしろいね。

これがこの辺りの地形図だよ。



あ! 三崎断層を境にして山が険しくなっちゃって、三崎層群のあたりは平坦な地形やね。

すごい、よく気づいたね。三崎層群は、砂岩が多いため、削られやすいから、なだらかな土地が広がっているよ。なだらかな土地があるから、三崎地区では、稲作などの農業が昔から盛なんだよ。

おお、やっぱり、大地と地域の産業はつながっちゃうのがやね。三崎層群の端っこも、くっきり境界がわかって面白かった!

